

## 論文審査の要旨

|  |  |     |       |
|--|--|-----|-------|
| 報告番号   | ㊦・乙 第 2999 号                             | 氏 名 | 藤井 智徳 |
| 論文審査担当者  | 主査 吉田 仁 教授<br>副査 土肥 謙二 教授<br>副査 九島 巳樹 教授 |     |       |
| <p>(論文審査の要旨)</p> <p>腸管原発悪性リンパ腫は、全消化管悪性腫瘍の約 1 % 程度と極めて稀な疾患であるが故に、標準的な治療ガイドラインは存在せず、現状では各施設間でその治療方針に相違がみられる。藤井らは、2001 年～2015 年の 15 年間で、昭和大学病院、藤が丘病院、横浜市北部病院で診断された 85 症例を対象とし、WHO 分類第 4 版 (2007) に準じ免疫・特殊染色を追加して組織型を再検討し、臨床病理学的に詳細な予後解析をおこなった。その結果、消化管穿孔そのものが予後不良因子になりうることを示唆された。また、組織型が high grade リンパ腫で、肉眼型が潰瘍形成を伴う半周以上の病変では、消化管穿孔や狭窄などの腸管合併症のリスクが高いため、化学療法よりも外科的手術の先行が有効であることを示した。</p> <p>上記のように腸管原発悪性リンパ腫の簡潔な治療アルゴリズムを提案しており、臨床的にも有用性は高いものと思われた。</p> <p>これらの知見は高いオリジナリティーと学術的価値を有し、学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名：『腸管合併症リスクを考慮した腸管原発悪性リンパ腫の切除適応に関する検討』<br/>         掲載誌名：日本腹部救急医学会雑誌、第 38 巻、第 7 号、2018 年、掲載予定</p> |  |     |       |

(主査が記載、500 字以内)